６．労働市場

マクロ経済で習うこと

中心はＧＤＰ

（支出の内訳）

ＧＤＰ＝消費＋住宅投資＋設備投資+在庫投資＋公共投資＋政府支出＋輸出－輸入

（時系列）

ＧＤＰ＝経済成長＋景気循環

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	企業	マネーサプライ	労働者 （失業率）
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 （消費者物価 卸売物価）	利子率 （国債利回り）	賃金 （雇用者所得）

２種類の失業

自発的失業　どんなに景気がよくなってもなくならない失業。職探しのための失業（摩擦的失業)。プライドが高くて安い賃金で働きたくないことによる失業など。自発的失業による失業率を**自然失業率**という。

非自発的失業　どんなに安い賃金で働こうとおもっても職がない失業。

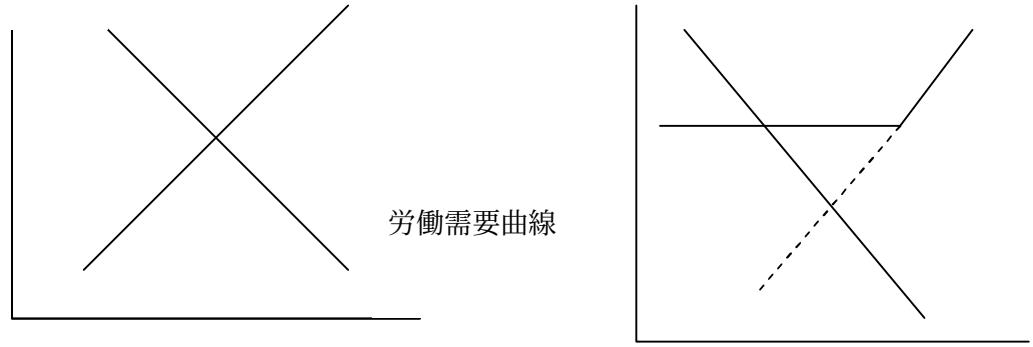
完全雇用　非自発的失業者がいない状態。

新古典派　　ケインズ

賃金　　賃金

労働供給曲線

労働需要曲線

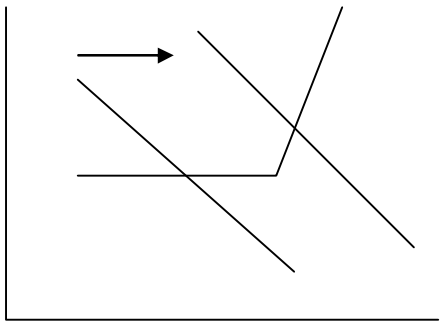


雇用量　　雇用量

古典派の労働市場の考え方
市場メカニズムが働いて常に完全雇用が達成されている。

ケインズの労働市場の考え方

ケインズは賃金の下方硬直性を仮定する。

賃金の下方硬直性があると非自発的失業が生ずる。

非自発的失業をなくすには、需要を増やす必要がある。